



プチポワ独占インタビュー

サッカー選手アドバイザー

マキシム・ヴォッセン (Maxime VOSSSEN) さん

プロフィール：1990年1月24日ブリュッセル生まれ
使用言語 - フランス語、オランダ語、英語、スペイン語

日本でも人気のスポーツ・サッカー、各チームで活躍する選手がどうやって希望のチームと交渉して入団するのかを、専門家に聞いてみました。

どんなお仕事ですか？

サッカー選手の希望チームへの移籍や日々の生活を助ける仕事です。

なぜサッカー選手なのですか？

小さい時からサッカーが好きで、遠い親戚にベルギー1部リーグのコーチをやっている人がいて、自然に生活の中にサッカーがありました。

それで今の仕事に？

大学では法律を学びました。それを生かして、2年前からサッカー選手の入団から日々の生活、医療面などをケアしています。

ベルギーだけでなく、世界を駆け回っていると伺いましたが、どんな国へ？

ヨーロッパでは主にベルギー、フランス、イギリス、オランダ、アフリカでは、マリ、セネガル、ガーナなどへ出向きますが、アメリカやアジアにも出かけています。

Vossen & Associates
www.vnassociates.co.uk
m.vossen@vnassociates.co.uk

具体的には、どんなことを？

選手がベルギーのチームに入団する場合、まず選手と契約し、そしてチームとも契約をして、それぞれの条件を交渉して、より良い条件で選手が活躍できるように取り計らいます。現在18歳から23歳の若手選手8人の世話をしています。サッカー選手としての力はあっても、外国としてのベルギーでの生活には慣れていません。なので、生活面でも支援しています。たとえば、アパートを紹介したり、試合前にベルギー料理ではなく、それぞれの選手の自国の料理を食べてもらって、精神的に落ち着き、一段とエネルギーになって試合に臨んでもらうため、レストランを紹介したりしています。例えば、日本人選手が、試合前にビフテキとフライドポテトを食べるより、鶏の唐揚げやトンカツと白いご飯の方が、気合いが入ると思いませんか？

和食をご存知なんですか？

学生時代に旅行で日本に行きました。日本人は、協調性があり、礼儀正しく、ベルギーに来るサッカー選手も他の国の選手に比べて、若くても規律を守ってチームの一員として活躍しています。ベルギーのチームは、このような選手を得ることを期待しています。反対に日本人の選手も海外での経験を希望していて、日本人にとって外国人の選手との試合経験を生かして、日本に戻ってから実力を発揮しています。

ベルギー人選手が外国のチームに入団する場合もあるのですか？

もちろんあります。例えば、先日韓国のチームから問い合わせがありました。第一条件として、まず身長が185cm~195cmの選手を希望しました。というのも、韓国人選手はヨーロッパ人選手に比べて背が低いので、長身の選手を受け入れて、いち早くボールをキャッチしてもらいたいのが狙いようです。納得できましたが、ヨーロッパではこういう条件を出されたことはありません。

医療面でのケアとは、どういったことですか？

練習中や試合中にけがをした場合は、チーム専属の医者が診てくれます。しかし、その場で完治しない場合や、セカンドオピニオンを受けたい時などありません。そういうときに、専門医を紹介して、いち早く健康な状態になってもらうようお手伝いをしています。いろいろなアドヴァイザーがいる中、選手がいつもよいコンディションで試合に臨めるよう、最大限のケアをモットーにしています。

今後なりたいことは？

これからは、日本人選手も視野に入れ、ベルギーで活躍してもらい、日本人の方にサッカーを通してもっとベルギーを知ってもらいたいと思っています。